

肖像図蒔絵プラークの原図に関して

On the Originals of Portrait Maki-e Plaques

日高 薫

はじめに 西洋銅版画写しの輸出漆器

- ①従来知られてきた肖像図プラケットの原図
- ②「ヨーロッパの著名人」にもとづくプラケット
- ③ローマ皇帝シリーズの原図
- ④その他のプラークの原図
- ⑤ヴィクトール・モロー肖像図プラークの原図

おわりに

【論文要旨】

18世紀末から19世紀初頭にかけて制作された輸出漆器の一群に、西洋の銅版画を蒔絵技法で写し取ったプラーク・プラケット類がある。本稿は、このうち主として肖像図を表したプラケットの原図について考察を加えるものである。

大量に残された様々な肖像図プラケットが、具体的にどの原図に基づいて制作されたかについては、先学の研究によって明らかにされているものも少なくないが、未だそのすべてが同定されているわけではない。筆者は、本稿において、版画集『ヨーロッパの著名人 (L'Europe Illustre)』の原図によるグループに次いで最も多くの遺品が認められるローマ皇帝図のグループの原因となった版画集『ローマ皇帝の歴史 (Historia augusta imperatorum romanorum)』を指摘し、さらに、ヴィクトール・モロー肖像図蒔絵プラークほか数点の肖像図プラークの原図に関する新知見を提示する。

モデルとなった版画の図様と蒔絵プラークの図様とを比較すると、多くは、原図の図様がきわめて忠実に写し取られており、蒔絵職人たちによって改変が行われる余地はあまりなかったようである。すなわち、伝統的な方法を用いることにより、西洋絵画や外国語の素養が全くない職人にも、一連の漆器を制作することが可能であったといえよう。モデルとなった版画を見つけることは、このほか、蒔絵プラークの制作時期や制作意図、受容などに関わる推測を可能にする点で有効である。